

(別添 3)

**【武蔵野市】
校務D X計画**

1 校務D Xにおける武蔵野市の現状について

武蔵野市教育委員会では、教員一人一人の校務改善や負担軽減を図り、児童・生徒と向き合う時間の確保とともに健康増進に向け、様々な取組を行ってきた。

令和3年度から使用を開始した学習者用コンピュータを適切かつ効果的に活用するために各校において様々な実践を重ねる中で、校務面においても活用事例をまとめ、令和6年2月に「武蔵野市学習者用コンピュータ活用指針」を作成、公表した。

また、統合型校務支援システム及び関連するハードウェアを令和4年度に更改し、教務・保健・学籍に関する情報の一元的な管理を可能にするとともに、校務用端末を校外において使用できる環境を整備した。

こうした中、令和5年12月に文部科学省が「G I G Aスクール構想の下での校務D X化チェックリスト～学校・教育委員会の自己点検結果～」を公表した。当市においては東京都全域の平均得点を上回る結果となった（対象校平均：474.6点（東京都全域平均：422.8点）、自治体別達成状況：350点（東京都全域平均：290.3点））。

特にD X化が進んでいるものとしては、「児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡におけるクラウドサービスの活用」や「学習者用コンピュータの家庭での利用」が挙げられ、前者について「一部している（半分以上）」または「完全にデジタル化している」、後者について「毎日持ち帰って、毎日利用させている」または「毎日持ち帰って、時々利用させている」と回答した学校は8割以上に上った。また、教育委員会においては、主催する会議・研修でペーパーレス化やクラウドサービスの活用を推進するとともに、教育委員会及び庁内各部署からの周知を電子的に配信する仕組みを整えた。

一方で、一部の項目については課題が残る結果となったため、今後、以下のとおり改善を実施していく。

2 「校務D X化チェックリスト自己点検結果」における課題及び対応策について

(1) 学校との各種事務手続きのペーパーレス化

自己点検において、業務にF A Xを使用している学校及び保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類がある学校は、それぞれ94.4%、83.3%に上っている。

学校と教育委員会との間では、F A Xによる連絡は原則として廃止しているが、押印を求める書類が存在するため、順次見直しを図り、電子メールに添付する等の方法へ代替する方向で検討する。

(2) クラウドサービスを活用した校務D Xのさらなる推進

自己点検において、「保護者から学校への資料提出におけるクラウドサービスの活用」、「日程調整におけるクラウドサービスの活用」及び「オンライン形式によ

る学校説明会や保護者面談の実施」について、「全くしていない」または「一部している（半分未満）」と回答した学校は、いずれも8割以上に上った。

以上の結果を踏まえ、保護者及び学校の双方にとって負担の軽減となるように、研修の実施及び学校ICTサポーター（ICT支援員）による支援等により推進していく。

（3）他市区町村との共同調達による次期校務支援システムの導入に向けた検討

現在、校務支援システムの選定を区市町村単位で行っているため、区市町村をまたいで異動した教員が従来と異なる校務支援システムを使用するケースが発生し、教員の負担となっている。この状態を解消するため、他の自治体と共同でシステム調達及び運営ができるよう検討を進める。

次世代校務DX環境においては、校務の中核をなす教務・保健・学籍等を校務支援システムが、上記以外の機能においては汎用クラウドツールが担う方針が示されており、適切なセキュリティを確保した上で両者間のデータ連携を実現するために、クラウド型の校務支援システムを導入する。